

I 研究テーマ

— 全校研究テーマ —

主体的に学び合う生徒の育成 ～キャリア教育と各教科の関連のあり方～

— 技術・家庭科研究テーマ —

生徒が主体的に学びながら、生活をよりよくしていこうとする技術・家庭科の指導
～家庭科で取り組むキャリア教育～

II テーマ設定の理由

社会の変化にともない、家庭をとりまく環境や生活様式が大きく変わってきている。急速な技術進歩によって、物質的な豊かさと便利さがもたらされ、あまり人と関わらなくても生きていけるような状況にもある。そんな時代に対応できるよう、各教科では子どもたちに「生きる力」をつけるための授業が行われている。技術・家庭科でも、生徒一人ひとりが、生活に必要な知識と技術を習得し、実生活に生かす力＝「生きる力」をつけることを大事にしている。

「生きる力」とは、「自分で課題をみつけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する能力」であり、このような力を身につけさせるためには、生徒自らが課題をもって授業に取り組んだり、「人」や「もの」との体験的なかかわりを持ちながら学習を展開することが大事であると考える。それは、そのように授業に取り組む中から「もっとこうしたい」、「こうありたい」という願いがわき上がり、それが「主体的な学び」につながるのではないかと考えるからだ。

家庭生活は「人」（家族・地域に住む人・自分の生活を支えてくれている人）や「もの」（食料・衣服・住居等）とのかかわりの中にあり、生活の中で自分の役割を認識することで、家族や身近な人々とともに暮らし、助け合って生活していることを実感することができる。また、自分たちを取り巻く食料や住居等について学ぶことで、よりよい家庭生活をおくるための「もの」のあり方について考えることができる。このように、「衣食住」を扱う家庭科は、生徒のたちの実生活に直結した教科であり、現在の生活を豊かにしたり、将来家庭を持ったり、地域社会に出る存在になったときに、その中で自分の役割を果たすことができるような生徒を育成したい。これは、キャリア教育でめざしている「生涯にわたって自らの生き方を主体的に切り拓いていく力」の育成とも相通じるところがあるのではないか。

そこで、生徒が主体的に学びに取り組んだり、「人」や「もの」とかかわりながら学ぶことを通して、生活をよりよくしていこうとすることが生活に生きて働く力＝「生きる力」へとつながり、本校で大事にしているキャリア教育の力の育成にもつながるのではないかと考え、本テーマを設定した。

III 研究の焦点

1 家庭科で取り組むキャリア教育

- (1) 各学年のキャリア教育の学習と関連をもたせた授業実践
- (2) 家庭科指導目標とキャリア発達能力の育成と関連が深い題材の選定
- (3) キャリア発達能力を育成する授業実践

IV 研究内容

1 家庭科とキャリア教育と関連

(1) 各学年のキャリア教育の学習と関連をもたせた授業実践

キャリア教育と関連をもたせた取り組みとしてできることは、各学年で行っているキャリア教育で行っている学習内容と家庭科の学習内容と関連をもたせて授業を行うことだと考え、授業に取り組んだ。

実践1－1年家庭科 題材名－「地域食材を使った献立をたててみよう」

①学習内容（全2時間）

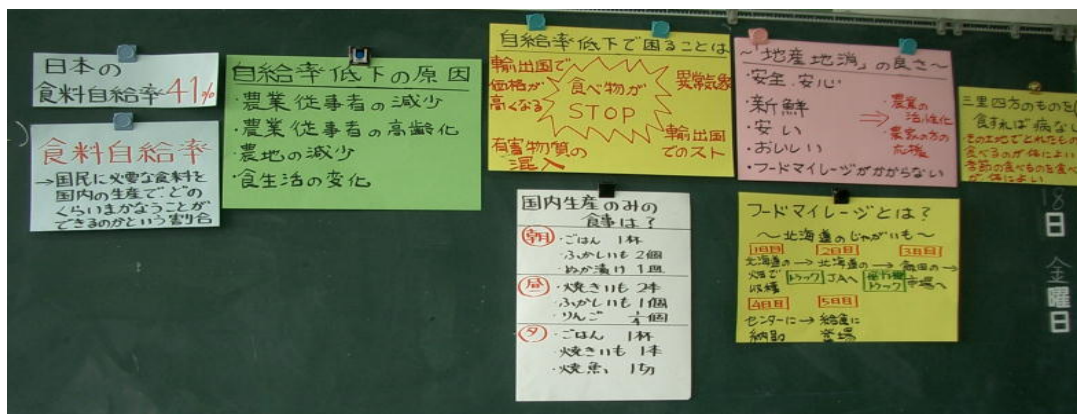
1年生はキャリア教育の学習として6月に農業体験を行った。体験前に農業従事者の高齢化や収入が少ない等、農業の現状や日本の食料事情について学び、大変なのになぜ農業をやり続けるのかという学習課題をもちながら農業体験に出かけた。農家に民泊しながら野菜収穫の手伝いや養豚の世話などを体験し、農家の方の大変さとやり甲斐などについて知った生徒たちは、農業をなんとかしたい、農家の人たちを応援したいという気持ちをもった。

- ・農家の方の収入が増えるように、地元の農家の人たちが作った物を買って食べよう
- ・農家の人たちが「安心して食べられるように」してくれている食品を料理に使用しよう
- ・地元産を使った料理を開発したり、地元産の良さをアピールしよう。
- ・国内の食料自給率をあげよう。

そこで、家庭科の授業で扱う「地域食材」の学習と、キャリア教育の学習とを関連させ、第一時では食料自給率の問題を提起に地産地消の良さを学習。第二時では栄養教諭より学校給食に使われている食材や地元で採れる食材について教えていただき、その食材を使った献立を班ごとに作成し、学校給食のメニューとして出していただけられるよう、共同調理場の栄養教諭に依頼した。11月9日（月）・11日（水）、各クラスから選ばれた代表メニューが本校をはじめ市内5校にも給食として出された。

②板書に見る二時間の授業の流れと学習カードに書かれた授業の感想

◆第1時



第1時の感想

- ・和食も自給率が高いわけではないという事に驚いた。地産地消にはたくさんの良さがあることがわかったので、地域のもを食べるようにしたい。
- ・ぼくは今まで子どもでは自給率は上げられないと思っていたので、食べるという簡単なことで自給率を上げることができることがわかったので、地元の物を食べたりして、農家の人たちに協力していきたい。
- ・食料を運ぶためにたくさんのお金が使われていることがわかった。地球環境のためにも地元で作ったものを地元で食べる事をしていきたい。

実践2－1年家庭科 題材名－「和菓子を作ってみよう」

①学習内容（全2時間）

地産地消献立をたて、地域の「食」に目が向いた生徒たち。そんな生徒たちに飯田市の特産である「和菓子」に触れさせることで、地域の食文化について学ばせたいという目的のもとに、和菓子作りを実施した。

はじめに、生徒たちは和菓子が「小京都」と呼ばれる飯田市の特産であることや、和菓子には人生や季節の節目ごとにふさわしいものがあること等を学習。

続いて、地元で和菓子店を経営している和菓子職人から「ねりきり」と呼ばれるあんこ、植物や季節を形づくる生菓子の作り方を教えて頂きました。職人がパツパツと作る様子を見ていた生徒たちは、自分でも簡単に作れそうだったようですが、いざ形を作ろうとするとなかなか上手くいかず苦勞していました。しかし、楽しく作りあげることができ、作った和菓子は家庭に持ち帰って食べました。



②学習カード・日記より

- ・和菓子作りをしました。飯田は小京都と呼ばれていて、今日作ったような和菓子有名だということをはじめて知りました。私は和菓子はあまり食べませんが、今日作って食べてみて、とってもおいしかったのでまた食べたいと思いました。
- ・今日は和菓子作りがありました。なんと和菓子作りのプロが指導してくれました。プロは目の前で次々とおいしそうなお菓子を作っていました。とても手が器用ですごかったです。実際自分が作ってみるとすごい難しくて、1つ作るのに30分もかかってしまいました。やっぱりプロはすごいなと思いました。
- ・私は美術とか工作が苦手なので、みんなと比べたらあまり上手にできなかったけれど、がんばって作ったから食べるのがもったいなかったです。家の人たちはみんな「上手だね」と言ってくれたのでうれしかったです。
- ・お店で売っている和菓子がこうやって作られていることをはじめて知った。一つひとつ大事に作られている食べ物を、感謝して食べようと思った。
- ・今日の和菓子作りで作った和菓子を家族みんなに食べてもらい、感想を言ってもらいました。姉からは「上手に作れたね。とてもおいしいよ」。母からは「えっ！すごくきれい。店で働いたら」とべたぼめでした。父からは「うん、きれいだし、おいしいね」とみんなで言ってくれました。うれしかったです。自分でもがんばって作ったから、自分で自分をほめてやりたいなと思いました。

学習カード・生活記録の記述から、和菓子を作るのに苦勞はしたけれど、家族においしいと言ってもらえたり、なんとか作り終えた自分をほめてやりたいと自己満足感を感じることができたことがわかる。また、職人の姿から自分も和菓子作り職人になりたいと思ったという生徒もおり、地域の食文化を伝えたり、支える人材育成の面でも貢献できる学習となった。

<考察>

食分野は生徒たちも興味をもっており、学年のキャリア教育の学習を通して、生徒たちの学習に対する意識が高まっていたので関連して授業を行うことは非常によい。家庭科で指導したい内容をキャリア教育の授業発展として取り入れた形ではあるが、生徒たちがキャリア教育でもった学習課題を解決しようとする意識も続いており、意欲的に学習に取り組んだ姿から主体的な学びが感じられた。授業で栄養士や和菓子職人、給食の食材を扱うなど、「人」や「もの」とかかわらせたことも、生徒が意欲的に学習に取り組むことにつながった。

2 家庭科指導目標とキャリア発達能力の育成と関連が深い題材の選定

職員研修で、吉田方中学校、京都教育大学附属小中学校のキャリア教育の実践をお聞きし、単純にキャリア教育と関連をはかった授業を行えばいいと思っていた自分の勉強不足を反省した。先の2つの事例の授業実践をまとめてみると、「課題解決能力」や「自他の理解能力」等、キャリア発達を支援する学習は行っていたことはわかるが、授業をする時にその視点を持って授業に臨んでいたかという点においては、?マークをつけざるを得ない。そこで、キャリア発達能力の育成と関連が深い題材を洗い出し、授業に取り組んだ。

(1) キャリア教育で育てたい能力

キャリア教育の視点（4領域）	キャリア教育を通して期待される力（8能力）
人間関係形成能力	自他の理解能力 コミュニケーション能力
情報活用能力	情報収集・探索能力 職業理解能力
将来設計能力	役割把握・認識能力 計画実行能力
意思決定能力	選択能力 課題解決能力

(2) 家庭科の授業を通して育てたいキャリア発達能力

[自他の理解能力] 様々な人間関係において、他者とのかかわりが自分にとって大切であることを理解し、家族や地域の一員として積極的に人間関係を築き、よりよい生活をめざしていく。
[役割把握・認識能力] 家庭や地域の人々の役割を理解し、家庭生活や社会生活で自分が果たすべき役割を認識し行動していく。
[課題解決能力] [情報収集・探索能力] 様々な選択場面において、情報をもとによりよい選択をし主体的に解決していく。

(3) 家庭科指導目標とキャリア発達能力と関連が深い題材

題材	家庭科指導目標（新CS）	キャリア発達能力
・自分の成長と家族 ・家族と家族関係	Aー自分の成長と家族や家庭生活とのかかわりを考える Aー家族関係をよりよくする方法を考える	自他の理解能力 コミュニケーション能力
・家庭生活と消費 ・住居・衣服選択	Dー物資の購入に必要な情報を収集できる Cー機能に合わせた選択のための情報収集ができる	情報収集・探索能力
・幼児と家族 ・家庭生活と環境 ・家庭と地域社会 ・地域の食文化	Aー子どもが育つ環境としての家族の役割を理解する Dー環境に配慮した消費生活について工夫実践できる Aー家庭生活と地域とのかかわりについて理解する Bー地域の食文化を理解する	役割把握・認識能力 課題解決能力
・家庭生活と消費 ・食品の選択と調理	Dー適切な選択及び購入ができる Bー用途に応じて食品選択し、調理できる	選択能力

3 キャリア発達能力を育成する授業実践

(1) 実践1－2年 小題材名「わたしたちの成長と家族」

①本題材における教科の特性とキャリア教育の視点

「家族と家庭生活」の学習では、幼児の生活を知ることから自分が育った環境を見つめ直し、家族に対して自分ができることはないか考える。また、生命の尊さや自他の生命を大切にすることを育てることと、自分をここまで育ててくれた周囲の環境に感謝し、将来の生き方について考える機会を持つことができると考える。

○教科としての目標
・ A 家族・家庭と子どもたちの成長 (1) 自分の成長と家族 ア 自分の成長と家族や家庭生活とのかかわりについて考える。

○キャリア教育目標（キャリア発達能力）
・ 人間関係能力〔自他の理解能力〕 自己理解を深め、自分を育ててくれた 周り人々に感謝の気持ちをもつことができる。

②学習内容 第1. 2時 「幼児の成長と人々とのかかわりを考えよう」

◇主眼

自分の成長に今までかかわってきた人たちを思い出し、現在子育てをしている方や子育てを支えるお仕事をしている人のお話を聞くことを通して、幼児が成長するのにかかわってきた人は家族だけでなく、多くの人たちに助けられ、愛されて成長してきたことに気づき、感謝の気持ちをもつことができる。

③生徒たちの学び（学習カードより）

アー自分の成長に今までかかわってきた人たちを記入しましょう。



*大半の生徒たちは家族等の近親者しか書けません。しかし、自分の成長にかかわってきた人たちを発表する学びあいを通して、自分の成長にかかわっている人たちの輪が大きくなっていきました。行政の存在までは気づきませんが多くの人に支えられて自分がいるということが理解できました。

イー子育てしている「沢柳さん」のお話をお聞きして

- ・お母さんは生まれるまでの十ヶ月赤ちゃんをすごく大切に
して、赤ちゃんは本当に大切にされて生まれてくるんだな
と思いました。私もそうやってうまれてきたと思うとうれ
しくなりました。
- ・子どもが生まれるという事は、簡単なことではないと思
いました。生まれる前だけでなく、生まれた後も大変だとい
うことを知りました。赤ちゃんのために良いと思ったことは何でもやると聞き、それだ
け元気に育ってほしいということで、赤ちゃんの幸せをたくさんの方が願っていること
がわかりました。沢柳さんは「生まれた時の喜びは一生忘れない」と言っていました。
私のお母さんもそうやって思ってくれていたのかなと思いました。



そうだったらうれしいです。

ウー子育てを支える仕事をしている「松村さん」のお話しをお聞きして

- ・私の成長にたくさんの方がかかわっていると教わって、とてもうれしいことだなと感じました。その人たちに感謝して生きていきたいなと思いました。
- ・赤ちゃんの成長に市役所の人や図書館の人、地域の人などが関わっていたなんて知らなかった。多くの人に支えられて生きてきたんだなと思いました。

エー赤ちゃん人形を抱いたり、妊婦体験をしてみて

- ・赤ちゃん人形は実際の重さになっていて、これが命の重さなのだなと思いました。妊婦さんがいかに大変かわかったので、困っているときに助けてあげたいと思った。

④考察

思春期をむかえ家族と距離をおきたい生徒もいるが、生後7ヶ月の赤ちゃんに触れ合ったり、子育て真っ最中の母親から育児経験や生まれた時の喜びを聞いたことは、自分もそうやって生まれたり、育ってきたことを知るよい機会となり、自己肯定感を感じることができたのではないかと。また、妊婦体験をしたり、子育て支援をしている方のお話しを聞いたことは、将来の生き方を考えたり、社会の一員としてできることを考えるよい機会となった。

保育の学習は対象とする幼児が身近にいないので授業が受け身になりがちであるが、「人」や「もの」とかかわる中で、主体的な学びができた。

(2) 実践2－2年 小題材名「家庭と地域とのかかわり」

①本題材における教科との特性とキャリア教育の視点

「家庭生活と地域」の学習では、家庭生活は地域の人たちに支えられていることや、地域の様々な活動を知り、地域に対して自分ができることはないかと考える。また、現在の生活を豊かにしたり、将来家庭を持ったり、地域社会に出る存在になったときに、その中で自分の役割を果たすことができると考える。

○教科としての目標	○キャリア教育目標（キャリア発達能力）
・ A 家族・家庭と子どもたちの成長 (2) 家族と家族関係 イ 家庭や家族の基本的な機能と、家庭生活と地域とのかかわりについて理解する。	・ 将来設計能力 [役割把握・認識能力] 地域の役割を考え、地域社会において自分が果たすべき役割を認識し、行動していく。

②指導内容 第1. 2時「地域とのかかわりを考えよう」

◇主眼

自分と地域とのつながり、家庭生活と地域とのつながりを考える中から、地域には、地域をよくしたり、地域の人々が住みやすいように美化や防犯、伝統文化の継承など様々な活動があり、その活動は中学生である自分たちにも無関係ではないということを知ることを通して、これからは地域の一員としてあいさつをしたり、地域活動・行事などに参加しようという気持ちをもつことができる。

③生徒の学び（学習カードより）

◎あなたの地域ではどんな活動や行事が行われているか知っていますか？
自分が中学生になって参加したことがあるものは○で囲みましょう。

羽場 地区

・ 地域の環境をよくするための活動	○資源回収 河川そばごみひろい 公園清掃 大平ワリンキャンペーン
・ 地域の交流を深めるための活動、行事	○羽場地区ふれあいスポーツ祭 ○文化祭 ○お祭り ○どんど焼き ○Ecoアゲ大会 ○ふれあい祭り ○やっせ大会 ○納涼大会 ○花火大会 ○餅つき大会
・ 地区や地区の人たちを助けたり、守ったりする活動、行事	防災訓練

アーあなたの地域でどんな行事が行われているか知っていますか

地域の行事に参加したことがないのか、家庭自体のつながりがいいのか、多くの生徒があまり記入ができなかった。しかし、生徒同士の発表する学び合いによって、自分たちも参加したことがある活動に気づき、地域をよくしていくためにたくさんの活動や行事が行われていることを知ることもできた。また家族が地域の役員となって活動にたずさわった経験を聞くことを通して、地域活動の大変さややり甲斐を知ることもできた。

イー自分の住んでいる地域をあなたのアイデアでもっとくらしやすい地域へ

- ・中学生も参加できるように、地域の行事と部活を重ならないようにしてほしい。
- ・街灯をふやして地域を明るくしてほしい。
- ・お店が少ないのでお店を作って活気をつける
- ・地域の行事を知らないので、通信などで知らせてほしい。
- ・子どもの森公園でやっているような楽しめる行事をたくさんやってほしい。

ウー私たちの地域をよくしていくために、自分にできることはなんでしょう。

- ・行事に参加する
- ・ゴミを拾う、ゴミを捨てない
- ・地域の方とかかわりをもっていく
- ・地域の店を利用していく
- ・あいさつをして明るい地域を作っていく。
- ・公民館を利用してつながりをもつ
- ・お年寄りや妊婦さんや小さい子が困っていたら助ける。

④考察

小学生の時は地域行事に参加していた生徒たちも、忙しい中学校生活の中では、行事に参加することも少なくなり、地域とのつながりも希薄になっているようです。今まで「家庭と地域」について扱う授業は簡単に済ませていましたが、今年度は、生徒会役員が「地域とのつながりを大事にしたい」と書いた新聞を読み、キャリア発達〔役割把握・認識能力〕を育成ともかかわっていけると考え授業に取り組んだ。「これからの地域を作っていくのは自分たちである」ということでこれから自分ができることを考えさせたが、地域の人たちとかかわりをもったり、行事に参加していく中で、「もっとこうしたい」という思いをもつ中から、それを実現しようとする一歩を踏み出していけることを願っている。今後、2学年と協力し地域をよくしていく活動（例えばあいさつ、ゴミ拾い）等を行っていくことを通して、3学年で行うキャリア教育の学習へとつなげていけるとよい。

V 研究の成果

- 1 各学年のキャリア教育と関連をはかったり、キャリア発達を支援できる学習を展開できたことは、生徒の感想からもキャリア能力を向上させるうえで有効であったことがわかる。
- 2 指導する上で教科とキャリア教育の視点を明確にしたことで、生徒たちにつけたい力を明確にすることができた
- 3 手立てとして「人」や「もの」と体験的にかかわらせたことで主体的な学びができ、自分たちの生活をよりよくしていこうとする力＝生きる力の育成につながった。

VI 今後の課題

- 1 家庭科は生徒の生きる場である生活をもとに授業を行っているので今まで行っていた教科指導にキャリア教育の視点を入れるというのは非常に取り組みやすい。その際は、指導案に視点を位置づける等、明確にしていく必要性を感じた。キャリア発達能力は一度の授業で身につくものではないので、少しずつ積み上げていくことが大事である。
- 2 生徒の評価はどうか。一学期に行った「将来と教科の授業との関連を考えたことがあるか」という生徒への調査結果では「おおむねはい」と答えたのは技術・家庭科は65%だった（教科では第二位）。教師側は力を入れて取り組んだと思っても、生徒たちはどう感じているのか。「キャリア教育」とはどういう学びをするのか生徒たちが共通認識する必要を感じた。